

区政会議委員より事前にいただいたご意見やご質問

● 全体に関すること

意見交換会でも質問しましたが、令和6年度の取組は、5年度の結果を踏まえて決まるかと存じます。文言の追記等がなされた6年度の取組について評価、指摘等を行うには、5年度の結果（振り返り）においてどのような不備や問題、課題が判明したのかの説明が必要です。（種野委員）

● 子育て・やさしさ部会に関すること

具体的取組1-1-1 「重大虐待ゼロ」をめざす取組

要保護児童対策地域協議会の代表者会議は誰が主体でどのような課題に対応するのでしょうか。年に一度しか開催されない会議がどのような役割を果たしているのでしょうか。（種野委員）

具体的取組1-1-2 保健・育児に関する家庭支援の推進

専門的家庭訪問支援事業について、旭区独自で1歳まで延長するとありますが、令和5年度とどのように異なるのでしょうか。（種野委員）

具体的取組1-1-3 子育て支援・相談機能の充実

区内では、子育てしやすいよう、安心して子育てできるようニーズに合わせた取組がなされています。また、子どもにかかる費用も無償化されつつあり、子どもを育てる環境も昔と違い、安心してできる気がしますが、現実問題として出生数はさほど変化が見られません（「現状」データによるとR2からR3は微増）。このような状況について区役所はどのように考えておられるのでしょうか。（鎌田委員）

新たに「保育等に係るニーズへの対応」が追加されていますが、これは、これまでの「ニーズへの対応」に問題があったからなののでしょうか、もしくはそもそも「ニーズの収集」に問題があったからなののでしょうか。（種野委員）

戦略1-2 子どもへの教育支援等

小・中学生の学力・体力向上支援に区として数年前からいろいろな事業をされていますが、その成果が現れていないのではないのでしょうか。区内調査の結果、施策の成果はあるのでしょうか。（鎌田委員）

「プログラミング体験学習」では、具体的にどのようなことをプログラムしているのでしょうか。（谷井委員）

この戦略における課題は何になるのでしょうか。アウトカム指標を具体的なものとし、令和5年度における達成・未達成を明らかにしてその対策を打ち出すべきだと思います。現状では内容が総花的で、期待するような結果がもたらされないのではないのでしょうか。学力向上をめざすということで良いのでしょうか。（種野委員）

具体的取組2-2-2 誰もが安心して暮らせる仕組みづくりの推進

令和6年度に「認知症の方等」が追記されたのは、これまでの高齢者への取組に一定の成果があり、次のステップとしてなのではないのでしょうか。高齢者には認知症が非常に多いという考えなのではないのでしょうか。認知症以外に病気や障がい（視力、四肢等）のある人はおられますが、なぜ認知症にフォーカスされたのでしょうか。（種野委員）

● 活力・安全部会に関すること

具体的取組4-1-1 地域防災・減災力の強化

・能登半島地震のニュース中の消防団長の話として、まだ火災が数件程度の時に現場に到着したものの、倒壊家屋により道路がふさがれて防火水槽まで行けなかったり、川の水位低下によりくみ上げができなかったりしたため、消火活動ができず大惨事になってしまったとのことでした。

専門家いわく、阪神淡路大震災以降、防火水槽を新たに設置する場合について、「①耐震性のある建物の近くとすること」、「②どこかが使用できるように複数の取水口を設けること」の2点を説明していましたが、区役所は防火水槽の設置箇所やその付近の状況（地震でふさがれることがないかどうか）などを把握していますでしょうか。

・防火・防災には警察や消防との連携が不可欠です。そのためには常日頃のコミュニケーションが大切ですが、コミュニケーションを維持するのにどのようなことをされていますか。

また、地下は地震などの災害に強いと聞いていますが、大阪メトロの3駅を区内に有する中で、区役所はどのような連携、コミュニケーションをとられていますか。

・発災後の仮設住宅について、旭区における想定を教えてください。

①設置予定地、②設置可能な棟数、③設置にかかる期間、④一番早く完成する住宅の棟数、期間
(阿路川委員)

・地域防災リーダーについて、現状では町会・連合単位で募集し、地域防災会議等に参集して活動報告を聞く程度で、特に専門的な知識・技術等を持たず、実践も伴わないリーダーという認識です。町会のメンバーに限らず広く活動内容を知ってもらい、若い人が活動に参加してもらう仕組みづくりを行ってもらえないものでしょうか。

・災害時の要支援者への支援について、連合町会の会館には支援者台帳が保管されており、個人情報という課題もあると思いますが、災害時に上手く活用できるのか疑問を持っています。実際に台帳に記載のない住民の支援をどうするのか具体的な検討が必要だと思います。(宮前委員)

意見交換会において、大阪で震災が起きた時に、知らない者同士が協力できるのかという問いに、しっかりとしたリーダーがいれば可能だという意見がありました。このようなリーダーをどのように育て、次に引き継いでいくのか、また、そのリーダーが今の若い世代とどのように協働していくのかなどの課題がありますが、現実にはどの団体も世代交代が難しい状況にあり、また、隣近所に誰が住んでいるのかも知らない状態では課題を乗り越えられないと思います。今私たちができることは、顔見知りになり、仲良くすることから始めることだと思います。(鎌田委員)

具体的取組4-2-1 防犯・交通安全の対策

防犯カメラの設置に関して、警察とのすみ分けはどのようになっていますか。設置したカメラは区役所が管理するのでしょうか。また、令和6年度は2台から1台に減っていますが予算減なのでしょう。

もともとターゲットとしている場所はどこなのでしょう（駅や商店街、公園、学校、交差点など）、また、現時点での設置の進捗状況（網羅の達成度）や今後の計画を教えてください。

区役所としては、防犯よりも防災に特化すべきところ、川の氾濫や雨量の管理となると、リアルタイムの監視が必要であるなどの課題もありますが、このような議論は行われているのでしょうか。(種野委員)